

指摘事由

学習指導要領に示す「内容の取扱い」の(2)のアの(ア)「作業的、体験的な学習を重視すること」に照らして、扱いが不適切である。

P.5 19～24行

実際に資料から歴史をよむことにしよう。まず室町時代の資料の「柳生の徳政碑文」から徳政を勝ちとった庶民層の姿を、次に図像資料の絵巻物から絵巻物の描かれた時代像をイメージしてみよう。

P.6 (2)タイトル

(2)「柳生の徳政碑文」から正長の土一揆をよむ

P.6 3～7行

かけて解読した「柳生の徳政碑文」とよばれる27文字が刻まれている。意味は「神戸四カ郷(大柳生・坂原・小柳生・邑地村)には、正長元(1428)年より以前の負債(借金)は破棄された」というもので、春日社領の4か郷の郷民が「正長の土一揆」の成果を刻んだものである。

古代・中世において民衆がみずからのことを記録に残すことはほとんどなく、

実際に資料から歴史を再現することを体験しよう。一つの例として、地域にある石造物に刻まれた文字から庶民層の姿を、次に図像資料の絵巻物から絵巻物の描かれた時代を読み解いてみよう。

(2) 石造物に刻まれた『柳生の徳政碑文』をよんでみよう。

かけて解読した「柳生の徳政碑文」とよばれる27文字が刻まれている。
この資料を実際に読んでみよう。「正長元年ヨリ サキ者カンヘ四カン カ
ウニヲ井メアル ヘカラス」。意味は「神戸四ヶ郷（大柳生・坂原・小柳生・
邑智村）には、正長元（1428）年より以前の負債（借金）は破棄された」とい
うものである。次に「正長元（1428）年」には何があったのか、また「オ井メ
＝負債」がなくなったとはどういうことなのか教科書のP.141を参照して調べ
てみよう。

この資料は春日社領の4ヶ郷の郷民が「正長の土一揆」の成果を刻んだもの
とされる。古代・中世において民衆がみずからのことを記録に残すことはほと
んどなく、

P.6 12～20行

一方、正長の土一揆を語るさいに必ず引用される資料に興福寺大乘院門跡の尊尊の日記『大乘院日記目録』があるが、そのなかでは「亡国の基としてこれ以上のものはない」と、民衆の蜂起に大きな衝撃を受けた支配者層の気持ちが記されている。

柳生の碑文の発見は正長の土一揆という歴史的事象について、対照的な資料の発見でもあったのである。また、この資料からは京都近郊の惣村が結合して一揆がひろがっていった様子も想像できる。郷土にあった地藏石のたった27文字の資料を読み解くことが、中世の一揆での惣村・庶民の姿をゆたかにイメージすることにつながるのである。

削除

P.7 (3)タイトル

(3)「絵巻物」から歴史をよむ

P.7 15行

ない物や諸関係、とくに民衆の姿相・生活などを具体的に探求し、絵巻物が描いている時代像・社会像をイメージしてみよう。

P.8 タイトル

— 絵巻物をよみ、描かれた時代像をイメージしよう —

一方、正長の土一揆を語るさいに必ず引用される資料に興福寺大乘院門跡の
じんぞん あ尋尊の編んだ『大乗院日記目録』がある。『柳生の徳政碑文』とこの資料とを
読み比べてみよう。『大乗院日記目録』のなかでは「亡国の基としてこれ以上
のものはない」と、民衆の蜂起に大きな衝撃を受けた支配者層の気持ちが記さ
れている。柳生の碑文の発見は正長の土一揆という歴史的事象について、対照
的な資料の発見でもあった。

身近なところにも歴史を解き明かすさまざまな資料は存在する。地域にある
記念碑や記念物などの史跡はそうである。身近な地域の記念碑や記念物などを
材料に郷土の歴史を調べてみよう。

(3) 「絵巻物」から歴史をよんでみよう

ない物や諸関係、とくに民衆の姿相・生活などを具体的に探求し、絵巻物が描
いている時代・社会を読み解いてみよう。

絵巻物をよみ、描かれたものや時代を調べてみよう

P.8 1～4行

絵巻物はその時代の民衆生活などを知る
絶好の資料である。絵巻物に描かれた舞台
や登場する多種多様な階層の人々を分析し、
その時代をイメージしてみよう。

P.8 5～18行

- ◆この絵巻物の絵は何をしている場面でしょうか？
- ◆絵にはどのような人々が登場していますか？
- ◆絵から気づいたことを記してみましょう。
- ◆この絵巻物の舞台は何時代だと思いますか？

P.9 14～16行

まうこともわかる。

- ◆この絵巻の絵は何をしている場面でしょうか？
- ◆絵にはどのような人々が登場していますか？
- ◆絵から気づいたことを記してみましょう。
- ◆この絵巻物の舞台は何時代だと思いますか？

削 除

もうこともわかる。

この絵巻に描かれている「舞台（場所）」、「人」や「もの」をさらに詳しく調べ、庶民の生活や鎌倉時代像をイメージしてみよう。

→P. 98鎌倉時代の諸産業の発達の頁参照

P.9 (4)タイトル

(4) 図像資料から歴史を読み解こう

P.9 15～25行

絵巻物をはじめ図像資料では、その時代のさまざまなものを視覚的に理解することができる。作品の制作年代や作者がどのような意図で制作し、どのように利用したかについて十分に留意する必要があるが、文献資料では記す必要のないものや文字ではあらわせないものや諸関係が、図像資料では主題にかぎらず、その舞台・背景などとして描かれ表現されているのである。とくに、生活文化・民衆生活を知るうえでは多くの情報をわたくしたちに与えてくれる。

とりあげた「一遍上人絵伝」のほかにも、日本の古代・中世には絵巻物をはじめ、絵画や漫画などの多くの図像資料が存在する。それらの資料を、現在の常識にとらわれることなく想像力をもって創造的に読み解き、歴史を復元し、時代像・社会像をイメージしてみよう。

P.10 後半部タイトル

「原爆ドーム」と地域の文化遺産

P.10 19～24行

博物館・資料館では保存できない文化遺産も数多く存在する。史跡・名勝など不動産文化財とよばれるものがそれである。史跡・名勝は原位置での保存となるが、時代や価値観によって保存が左右されることがある。比較的新しい時代の遺産には、積極的な保存対象になりにくく、いつしか埋没したり破壊されてしまうものも少なくない。ここでは、近代の遺産であるとともに「負の遺産」とも称され、保存に関しても議論があった戦争遺跡「原爆ドーム」について考えてみよう。

(4) みずから資料にあたり歴史を読み解く体験をしてみよう

歴史は資料にもとづいて叙述される。実際に『柳生の徳政碑文』や『一遍上人絵伝』を読み解くことで歴史の場面を再現する方法を、その一端ではあるが体験した。特に、絵巻物をはじめとする図像資料では、その時代の様々なものを視覚的に理解することができる。

ところで、例にあげた図像資料をはじめ文献資料などさまざまな資料や情報は、図書館や博物館を訪れることや、インターネットなどを活用することで手にすることができる。また、これらの方法で手に入れた資料や情報をもとに、身近な史跡や遺跡を訪ねたり、伝承されている民俗資料を見聞する機会をもとめることも可能である。

みずから手にいれた資料をもとに、現在の常識にとらわれることなく、みずからの想像力をもって創造的に読み解き、ほかの様々な資料も利用して歴史を復元し、時代像・社会像をイメージしてみよう。

文化遺産をたずねようー「原爆ドーム」と保存活動ー

博物館・資料館では保存できない文化遺産も数多く存在する。史跡・名勝など不動産文化財とよばれるものがそれである。史跡・名勝などの文化遺産や関連施設をたずねて、文化遺産がわたくしたちに伝える歴史を学ぶとともに、文化遺産を保存することの大切さを考えよう。

ここでは、積極的な保存対象とはなりにくく、埋没したり破壊されてしまうことの多い近代の遺産のなかで、「負の遺産」とも称される戦争遺跡「原爆ドーム」を例に考えてみよう。

1945(昭和20)年8月15日、都市広島に米軍B29爆撃機「エノラ・ゲイ」号からは 25
 なたれた人類史上最初の核兵器である原子爆弾が炸裂した。米軍が「リトル・ボー 割 除
 イ」とよんだ広島型の原子爆弾は、一瞬にして地上を凄惨な地獄にかえ、都市を完
 全に破壊し、20万人以上の尊い命をうばった。爆心直下の広島県産業奨励館は倒壊
 はまぬがれたものの鉄骨むきだしの残骸と化した。これが「原爆ドーム」である。

この建物については犠牲者を忘れないためにも残すべきだと考える保存運動が戦後 30
 まもなくおこっている。しかし一方で被爆の悲惨な思い出につながるので取り壊そ
 うといった、あい反する市民の声も上がり、存廃論議は1966(昭和41)年7月、広島
 市議会が全会一致で保存を決議し、広島市長が「人類懺悔の象徴」として保存する

と表明するまで続いた。その間、建物の風化はすすみ風雨でレンガなどが落下するようにな
 ったため、1967年より保存工事がおこなわれたが、工事に必要な資金は全額募金でまか
 なわれた。1990(平成2)年にも再度保存工事がおこなわれたが、この工事も半額が募金で
 まかなわれた。広島市民は言うに及ばず、内外各地から人々の募金が集まったのである。

- 5 市民の熱意から保存することが決まった第二次世界大戦の戦争記念碑、平和祈念都市広
 島のシンボル「原爆ドーム」は、
 1996(平成8)年12月メキシコで
 開かれたユネスコ世界遺産委員
 会で、アメリカと中国の合意は
 得られなかったものの世界遺産
 リストに「広島平和記念碑」の
 名称で登録されることとなった。

第二次世界大戦の遺跡としては、
 1979(昭和54)年ポーランドのア
 ウシュヴィッツ強制収容所に続
 いて2番目の世界文化遺産であ
 る。

身近な地域にも無名ではあるが「戦争遺跡」が多く存在している。その数は戦後
 半世紀以上を過ぎた今、高度経済成長期、バブル経済期の土地の乱開発で、次々に
 20 消え去り埋没してわすかとなっている。平和な今、忘れさられつつある地域の戦争

1945(昭和20)年8月6日、都市広島に米軍B29爆撃機「エノラ・ゲイ」号からはなれた人類史上最初の核兵器である原子爆弾が炸裂した。一瞬にして地上が凄惨な地獄にかわり、都市は完全に破壊され、10数万人の尊い命がうばわれた。爆心直下の広島県産業奨励会館は倒壊はまぬがれたものの鉄骨むきだしの残骸と化した。これが「原爆ドーム」である。

▶このような文化遺産が伝える歴史は、文化遺産とともに記念碑などに記されていたり、その地域の資料館に関連の資料が保存・展示されていることが多いのでたずねてみよう。例示した原爆ドームに関しても、周辺には記念碑がたち、平和記念資料館などが建設され関連資料も保存・展示されており、平和記念公園としてわたくしたちに歴史の重みを伝えてくれる場となっている。

この建物については犠牲者を忘れないためにも残すべきだと考える保存運動が戦後まもなくおこっている。しかし一方で被爆の悲惨な思い出につながるので取り壊そうといった、あい反する市民の声も上がり、存廃論議は1966(昭和41)年7月、広島市議会が全会一致で保存を決議し、広島市長が「『人類懺悔の象徴』として保存する」と表明するまで続いた。その間、建物の風化はすすみ風雨でレンガなどが落下するようになったため、1967年より保存工事がおこなわれたが、工事に必要な資金は全額募金でまかなわれた。その後再度の保存工事でも内外各地から人々の募金が集まり、半額がその募金でまかなわれた。

市民の熱意から保存することが決まった第二次世界大戦の戦争記念碑である平和記念都市広島のシンボル「原爆ドーム」は、1996(平成8)年12月メキシコで開かれたユネスコ世界遺産委員会で、アメリカと中国の合意は得られなかったものの、世界遺産リストに「広島平和記念碑」の名称で登録されることとなった。

文化遺産に目を向け、保護することで、その重要性を世界に伝えることとなった例である。

身近な地域にも無名ではあるが「戦争遺跡」が多く存在している。その数は戦後半世紀以上を過ぎた今、高度経済成長期、バブル経済期の土地の乱開発で、次々に消え去り埋没してわずかとなっている。平和な今、忘れ去られつつある地域の戦争遺跡をはじめ、近代の文化遺産など地域にある遺跡・遺物をみずからたずねて調査し、その保存・保護についても考えてみよう。

原

文

P. 11 18~22行

修

正

文

▶身近な地域にある文化財がどのように保存されてきたか。現在どのように保存・維持されているのかなどを、市町村教育委員会の担当部署などに問い合わせたり、資料館・図書館やインターネットを利用して調べてみよう。また、それらで得た情報を手がかりにして、調査・保存にとりくむ人々や歴史の体験者から話を聞いてみよう。